

2018年1月17日

ホテルニューグランドのタワー客室を一新

ホテルでのんびりと横浜の時間を楽しむための室内配置にこだわり

照明やアートにはオリジナル和紙の装飾を使用し、寛ぎを演出します

ホテルニューグランド(横浜市中区山下町10番地/常務執行役員総支配人 青木宏一郎)では、ホテルのタワー棟6階から17階の客室をリニューアルいたします。2018年2月と5月よりそれぞれ2フロアずつ2か月半に渡るリニューアル工事を、また2019年1月より2フロア、4月より3フロア、7月より3フロアの同工事を実施し、2019年内に全12フロアの工事が完了予定となります。

山下公園前より横浜港を一望する景色をご覧いただきながらホテルでのんびりと「横浜の時間」を楽しんでいただけるように、窓に向かってチェアとテーブルを配し、お客様の記憶に残る滞在をお手伝いさせていただきます。重厚感と趣のあるエレガントなタワー客室の装飾につきましては、和紙デザイナーの堀木エリ子氏に監修を依頼し、丁寧に漉き上げた和紙による温かな照明を用いて、東洋と西洋が融合する「日本のクラシックホテル」ならではの上品な空間を演出いたします。本工事の総投資額は約26億円(2018年度10億円、2019年度16億円※2019年度は変更する場合があります)となり、全12フロアのリニューアルを進めてまいります。

1. リニューアル工事概要

- 1) 対象: ホテルニューグランドタワー 6階～17階の客室(約180室)
- 2) 内装デザイン: 三井デザインテック株式会社
- 3) 和紙デザインおよび監修: 株式会社 堀木エリ子&アソシエイツ
- 4) 施工: 清水建設株式会社



タワーツイン(32 m²)



タワーベイビューダブル(34 m²)

上記写真はイメージパースです。

2. リニューアルポイント

客室は単に体を休めるだけでなく、“とき・こと”をゆったりと味わう場所。窓に向かってチェアを配し、お客様にとって記憶に残る滞在となるような配置にこだわりました。山下公園前に広がる横浜港の景色を眺めながら、ホテルでのんびりと横浜の時間をお楽しみください。

客室内は奇をてらうデザインではなく、これまでに積み重ねてきた歴史に寄り添うようにバランスをとることで、多くのお客様に長く愛され続ける普遍的な空間を実現しました。

3. デザインコンセプト

フランスの著名インテリアデザイナー、ピエール・イヴ・ローションが手掛けたホテルニューグランドタワーの内装コンセプトであるヨーロッパアンエレガンスを継承し、客室内の家具や調度品には厚みのあるファブリックや細やかなディテールを随所にちりばめ、重厚感や趣のある客室デザインとしました。また、ホテル本館ロビーや宴会場の折衷様式の装飾にならない、照明やアートには和紙デザイナーとして世界的に著名な堀木エリ子氏を起用し、こだわりの和紙を使用した東洋と西洋が融合する「日本のクラシックホテル」の趣きをデザインコンセプトにしました。

4. 堀木エリ子氏創作和紙のコンセプト

客室のアートパネル、デスクランプは、手漉き和紙によって表現されます。90年の時を経て今も息づくホテル内のレリーフ柄をモチーフに、透かし手法で漉き上げます。日本と西洋が融合した美の表現を受け継ぎ、新たな時代へ向けて、上質の空気感を演出します。

堀木エリ子氏略歴

「建築空間に生きる和紙造形の創造」をテーマに、2700×2100mm を基本サイズとしたオリジナル和紙を制作する。和紙インテリアアートの企画・制作から施工までを手掛ける。近年の作品は「東京ミッドタウンギャラリー」、「パシフィコ横浜」、「在日フランス大使館 大使公邸」、「成田国際空港第一ターミナル到着ロビー」のアートワークの他、N.Y. カーネギーホールでの「YO-YO MA チェロコンサート」の舞台美術等を製作した。

5. リニューアルの背景

横浜市認定歴史的建造物の本館の文化財としての価値を将来に亘って保存活用していくため、2014年、2016年の2期に渡り本館大規模改修工事を完了しました。1991年にオープンしたタワー棟の客室改修においても日本のクラシックホテル文化の継承という独自性を強く訴求する意匠にこだわり、本工事を実施してまいります。



本件に関するお問い合わせ
株式会社ホテルニューグランド
営業企画部 谷口 謙一郎

〒231-8520 横浜市中区山下町 10 番地
E-mail : k.yaguchi@hotel-newgrand.co.jp
Tel: 045-681-1877(直通) Fax: 045-663-3600

必要な素材や写真等がございましたらお気軽にご連絡ください。